



北海道大学

「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保
するシステムの整備」事業

事業タイプ: 世界的研究拠点整備

北海道大学

1. 本学におけるURAシステムの整備

- 組織体制整備
- 職務体制整備（雇用・評価・育成）
- システムの定着・安定化（キャリアパス）
- システム整備に対する大学執行部の取組

2. URAシステム整備による成果及び効果

- 世界的研究拠点の形成
- 学内外への情報発信

3. 事業終了後のURAシステム定着・運営の安定への取組

- 学内ローテーション制度を確立
- 高度専門人材のURAへの統合



1-(1) URA組織体制整備構想の達成状況

2

【組織整備】

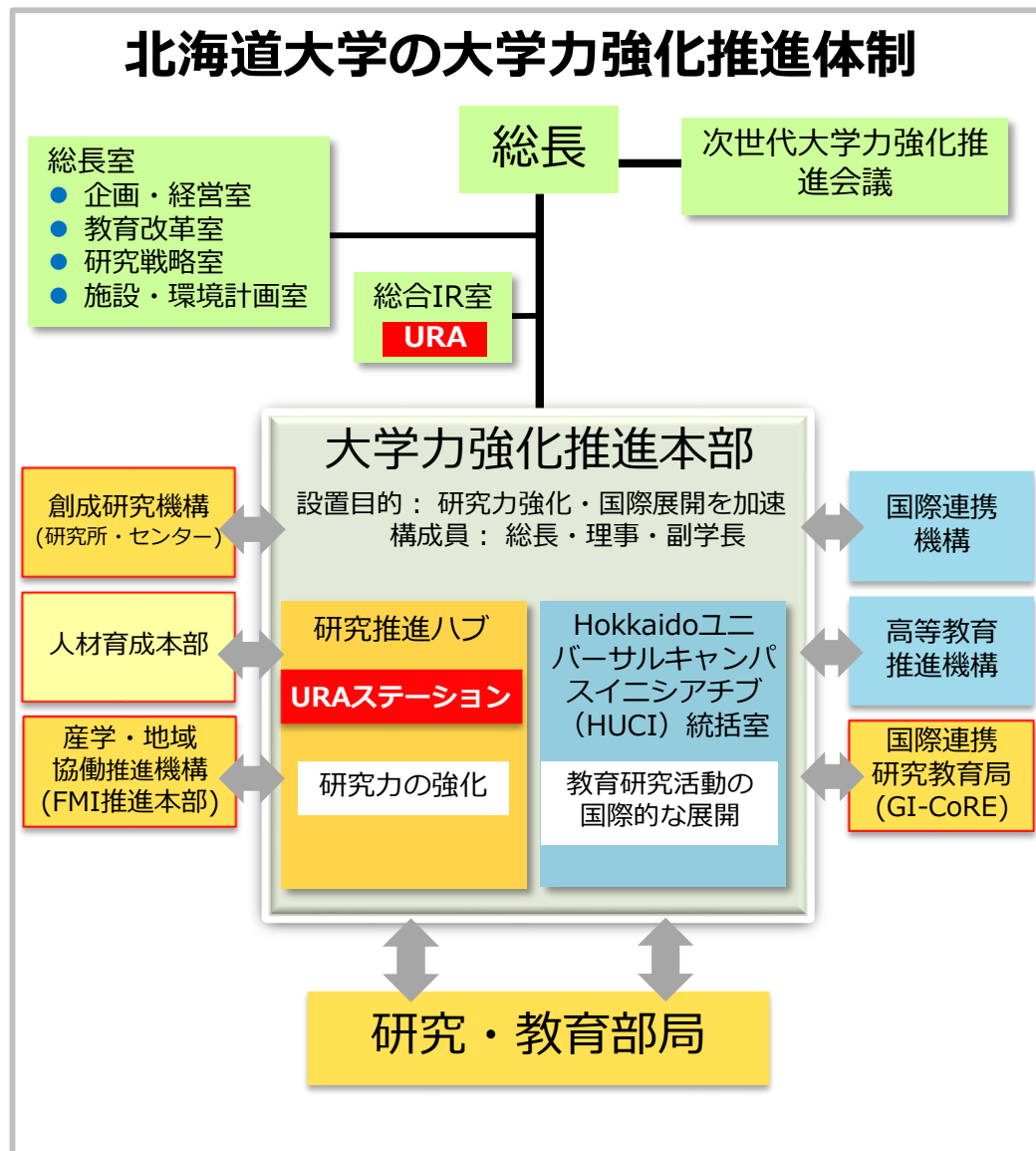
- 平成24年度：URAステーションを創成研究機構に開設
- 平成27年度：URAステーションを「大学力強化推進本部」に移管

【体制整備】

- 平成27年度：「**URA職**」を創設（無期雇用枠の確保とテニユアトラック制度を導入）

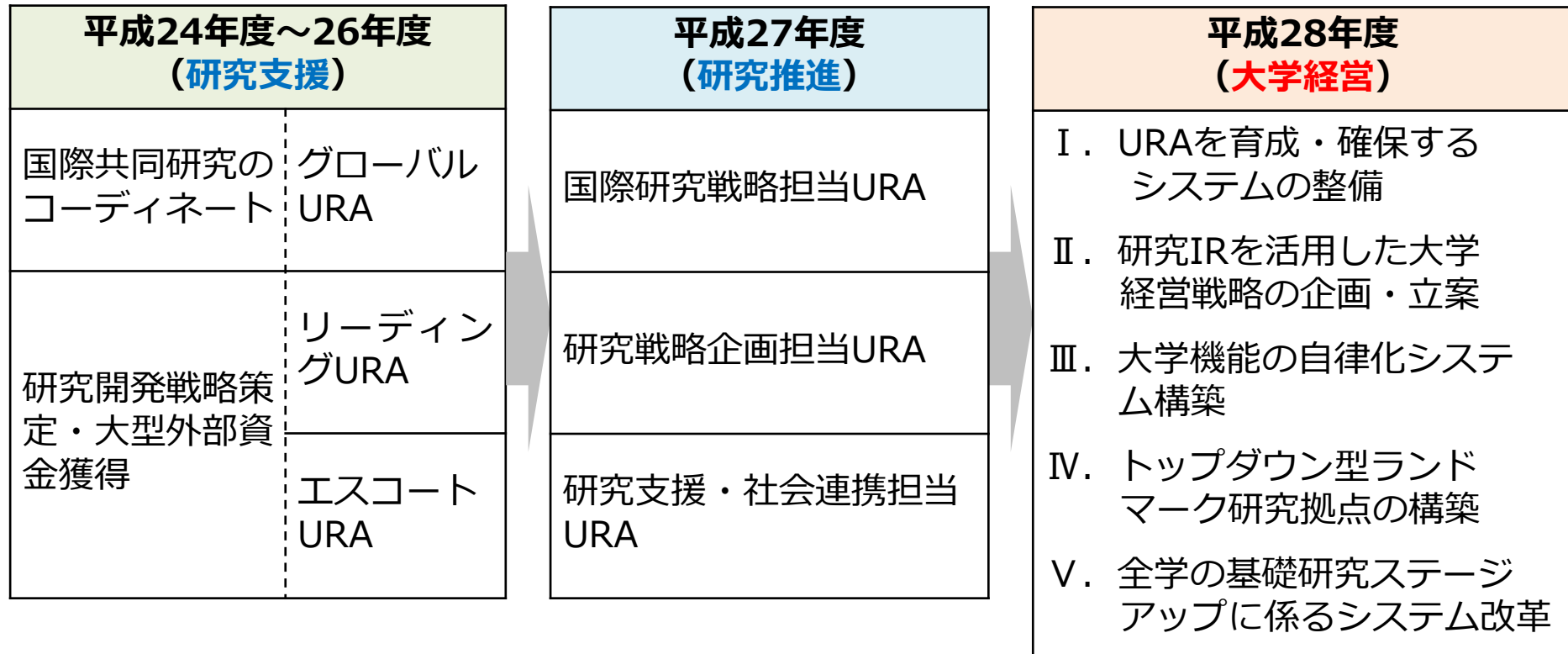
【全学的な配置】

- 世界的研究拠点等のトップマネジメントにURAを配置
- 部局への配置とローテーション制度の導入
- 全学の研究IRに注力



1-(2) URA職務環境等整備の達成状況

URAの役割の変遷



- URAの役割を「研究支援」から「大学経営マネジメント」へ発展
- URAの担当を「専門特化型」から「オールラウンド型」へ

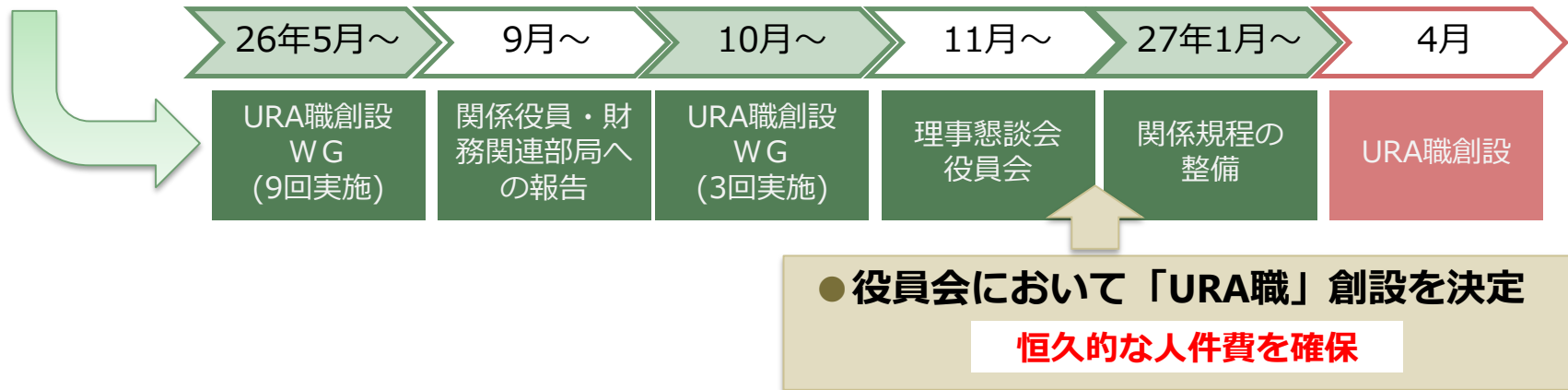


1-(2) URA職務環境等整備の達成状況

- 総長直轄「大学力強化推進本部」に**URA職創設WGを設置**（平成26年5月）
- 教員，事務職員，URAで構成，多様な視点から制度設計を実施

URA職創設ワーキンググループ

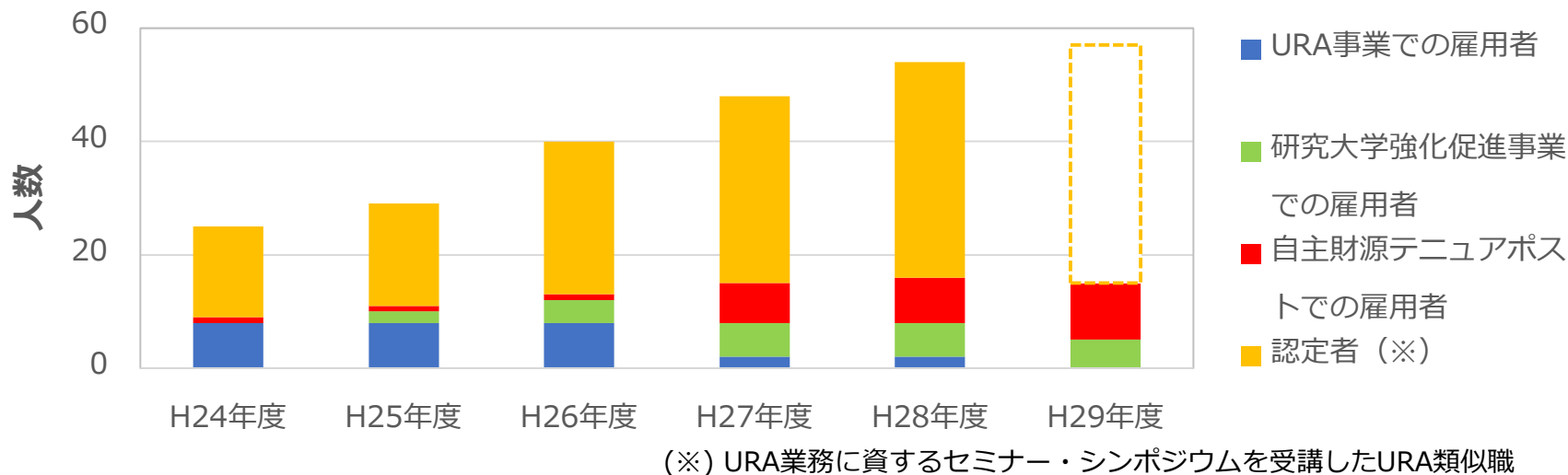
- ① 平成27年4月「URA職の創設」までの検討事項を確認し，**スケジュール（ロードマップ）を策定**
- ② 「**URAの位置付け**」・「**産学連携本部等の他職種との差別化**」について議論



- 本部URA14名の無期雇用枠を確保
- 本事業で雇用したURAのうち希望者は審査・合格後に無期雇用

1-(2) URA職務環境等整備の達成状況

URAの雇用と育成



シンポジウム	平成23年度以降計 6 回開催：参加者のべ 774 人
アドバンストセミナー	平成23年度以降計 21 回開催：参加者のべ 747 人
URA合宿研修	平成27年度より 2 回開催：全員参加
公募説明会	平成24年度以降、札幌・東京において計 10 回開催：参加者のべ 91 人
学会・セミナー等への参加	R A 協議会、科学技術社会論学会等に参加

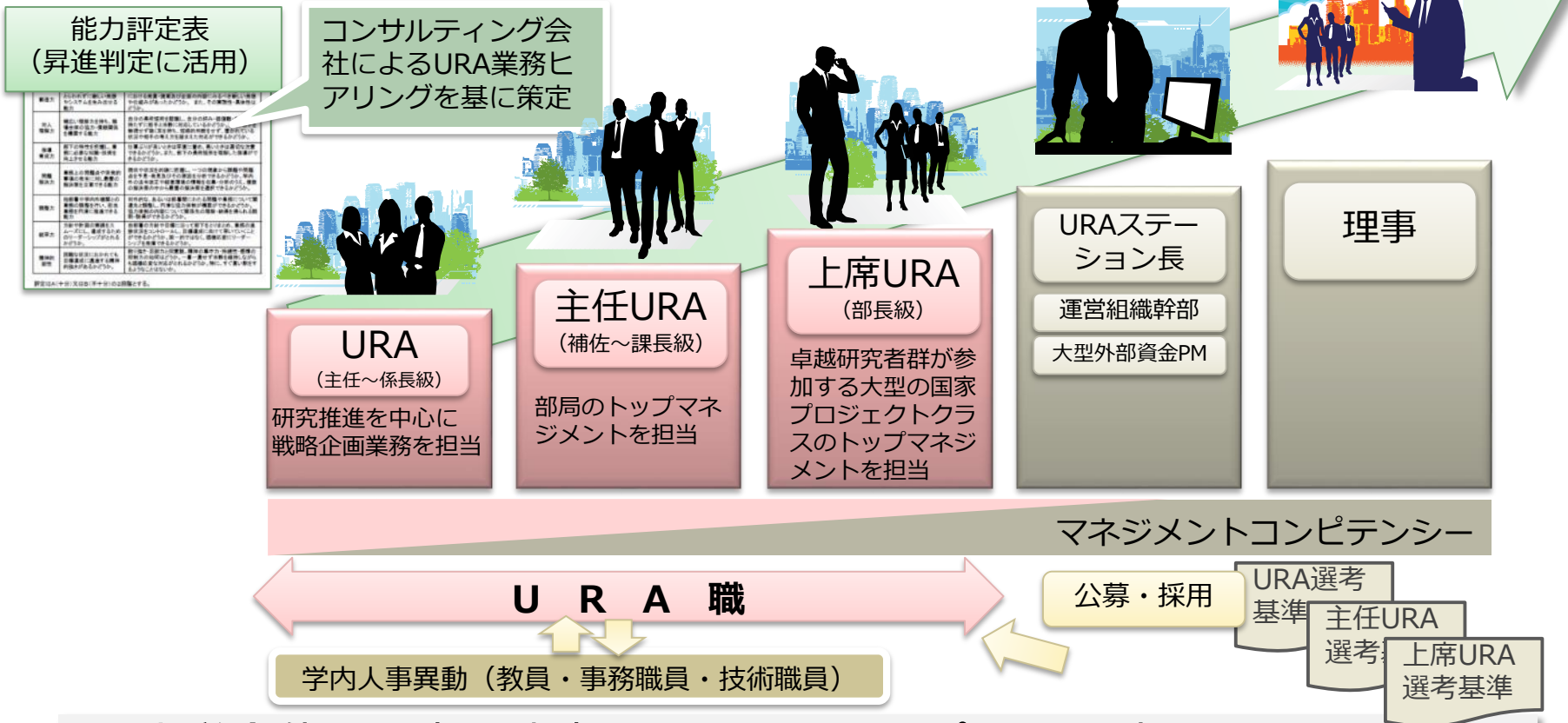
- 平成28年度末時点で54名確保(URA16名、認定者38名)
- 学内でURA育成セミナー等を多数開催

1-(3) URAシステムの定着・運営の安定化 に関する取組の達成状況

6

- 審査を経てテニユア職へ移行可能 (テニユアトラック制)
- 本学で唯一のフレックスタイム制導入 (コアタイム：10:00～16:00)

URAのキャリアパス



- 大学全体での意思決定のもとキャリアパスを設計
- 平成29年度科学技術白書に事例として掲載

1-(4) URAシステム整備(改革)に対する 学長及び関係役員の責務

7

組織体制整備のための取組

- URAステーションを総長直轄組織に設置
- 研究担当理事が直接URAを指揮・指導
- 学内外へ情報発信



職務環境整備および定着のための取組

- 役員会での審議ののち「URA職」の創設
- 大学全体としてURAシステム整備を意思決定
(本部URA無期雇用枠14名分を自主財源で確保)

全学への配置・定着に向けた取組

- トップマネジメント業務への配置
(北極域研究センター：センター長補佐、GFC：副センター長)
- ローテーション制度による部局への配置
(理学研究院 研究戦略室：室長)



2. URAシステムを整備したことによる成果及び効果

8

URAが獲得に貢献した主な事業

H24年度 FMI国際拠点(研究施設)

H25年度 研究力強化促進事業
COI STREAM(トライアル)

H26年度 スーパーグローバル大学創成支援事業

H27年度 COI STREAM(中核拠点昇格)
ArCS(北極域研究推進プロジェクト)

H28年度 先端研究基盤共用促進事業
全国共同利用共同実施(北極域)

- 第二期中期目標期間評価において「URAを活用した大型外部資金の獲得」が特記すべき優れた点として評価される



例1) FMI国際拠点・COI拠点の創設

主旨・目的：食・健康・医療に関する組織型産学連携研究を推進する場

成果及び効果：日立製作所、岩見沢市、道内企業など37機関によるCOI「食と健康の達人」拠点などを実施中

FMI(フード&メディカルイノベーション)国際拠点

産・学・地域の協働による革新的な研究開発・社会実装・市民との対話の場



4F研究室 DEN
3F共用機器室 DEN 研究室
2Fセミナールーム
展示スペース
ミーティングルーム
ディスカッションブース
研究室
1F多目的ホール
共用機器室
オフィス

- 運営委員会の過半数が学外委員
- 独立した運営権限の付与
 - ①人事選考
 - ②予算執行・管理
 - ③活動状況評価
 - ④拠点スペース配置

COI「食と健康の達人」拠点

食・運動・健康・医療の連携によるイノベーション創出に向けた研究開発の推進



- COI-STREAM（本格実施ステージ）への引き上げ
- 他大学、企業、自治体との連携研究体制の構築
 - ①岩見沢での個人の健康データベース構築、個人の行動変容ツール構築
 - ②母子健康コホート調査のデータベース化
 - ③オープンイノベーションコンソーシアムの構築

- URAが拠点構想の企画、COI申請、立ち上げを先導

例2) 北極域研究センターの創設

主旨・目的： 北極域環境変動に対応する国際的研究拠点を創設

成果及び効果： 文部科学省北極研究推進プロジェクト(ArCS)を獲得
全国初の連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点到認定



- URAが設立を支援し、センター長補佐として運営に関与

例3) グローバルファシリティセンターの創設

主旨・目的： 先端機器・設備共用の管理・有効活用、コスト削減

成果及び効果： ① **文部科学省先端研究基盤共用促進事業** を獲得
 ② 学内の小型・中型機器のリサイクル事業「**設備市場**」を設立
 ③ 技術職員のスキル及び工作系機器の共用事業「**試作ソリューション**」を設立

グローバルファシリティセンター(GFC)創設

【5つの事業を推進】

- ① **オープンファシリティ**： 学内機器の共用化
- ② **機器分析受託**： 学内共用機器を用いた受託分析
- ③ **設備市場**： 機器等の学内リソースの有効なリサイクル
- ④ **試作ソリューション**： 学外の試作・加工依頼を受注
- ⑤ **国際連携推進**： GFCに関するデータベースの世界展開

世界最先端「同位体顕微鏡」



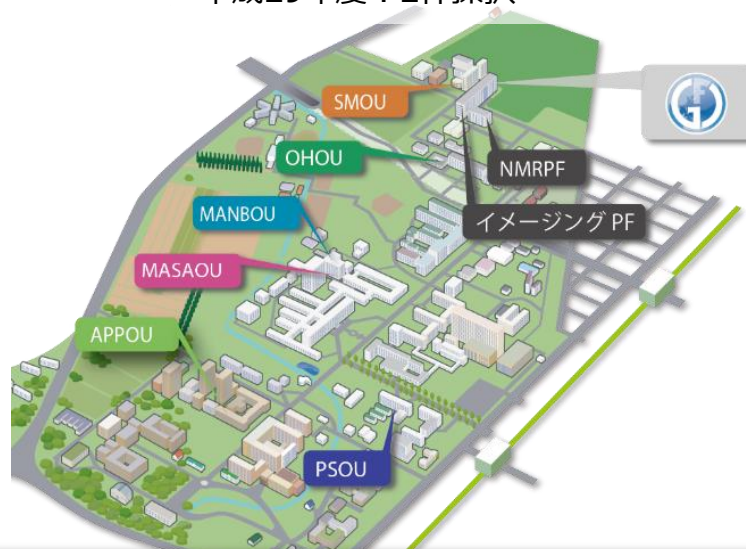
宇宙科学、生命科学など幅広い分野で活用

共用開始以来、**Science, Nature等の高インパクトファクター論文** を発表

国家政策を先導する次世代研究基盤戦略

【全国最多8拠点（約2億円/年）の採択に貢献】

- ① **共用プラットフォーム事業**(2拠点)
- ② **新共用事業** 平成28年度：4件採択
平成29年度：2件採択



学内の23組織から8つの“**機器共用モデル拠点**”が先端研究基盤共用促進事業に採択

● URAが機器共用15年の実績を第2フェーズへ展開

2. URAシステムを整備したことによる成果及び効果 学内外への情報発信

12

媒体		開始時期・発信数等
①Webサイト		発信数累計 162 件
②Facebook		発信数累計 710 件
③Twitter		発信数累計 716 件
④URA@北海道メーリングリスト		登録者 168 名、 60 件発信
⑤パンフレット		平成25年6月発行
⑥アクティビティレポート		平成27年12月発行
⑦学会発表		計 34 回
⑧イベント	シンポジウム	計 6 回開催：参加者のべ 774 人
	アドバンスセミナー	計 21 回開催：参加者のべ 747 人
	公募説明会	計 10 回開催：参加者のべ 91 人
	クロスロード交流会	計 8 回開催：参加者のべ 172 人



2014.9.17-18

第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会

- 参加者510名
- 15大学担当理事によるセッション
- 200名を超えるURAによるワークショップ



2016.9.30

URA公募説明会

- 道内外から23名参加(内、大学院生3名)
- 現役URAを囲む座談会実施

- URAシンポジウム・RA研究会合同大会を主催(平成26年度)
- 各種セミナー、公募説明会でURAの認知度を向上

3. URAシステムの定着・運営の安定に向けた取組 体制と学内の配置状況

13

総
長

大学力強化推進本部研究推進ハブ

研究推進ハブ部門長
理事・副学長
西井 準治



URAのバックグラウンド

- ✓ 大半が博士号取得
- ✓ 年齢 30代後半～40代前半が中心
- ✓ 前職は大学教員・研究機関研究員・民間企業・官公庁等

URAステーション



URAステーション長
山崎 淳一郎



副ステーション長
江端(主任)
宇宙科学

田中(主任)



農学

岡田(主任)



地球科学

小俣



生物学

古畑



法学

高木



経済学

阿部



土木工学

天野



生物学

加藤



生物学

和田



地球科学

上原



化学

木場



法学

創成研究機構

産学・地域協働推進機構

H U C I 統括室

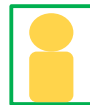
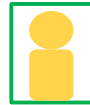
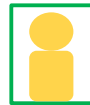
国際連携機構

各部局

本部事務局

人材育成本部

文学研究科
URA



のべ7名が出向・兼務

大学経営企画

事業責任者

学外

北極域研究センター
センター長補佐



グローバルファシリティ
センター副センター長



北大病院 医療事業化
タスクフォースメンバー



理学院 研究戦略室
室長



総合IR室
室長補佐



産学・地域協働推進機構
生物多様性条約対応リーダー

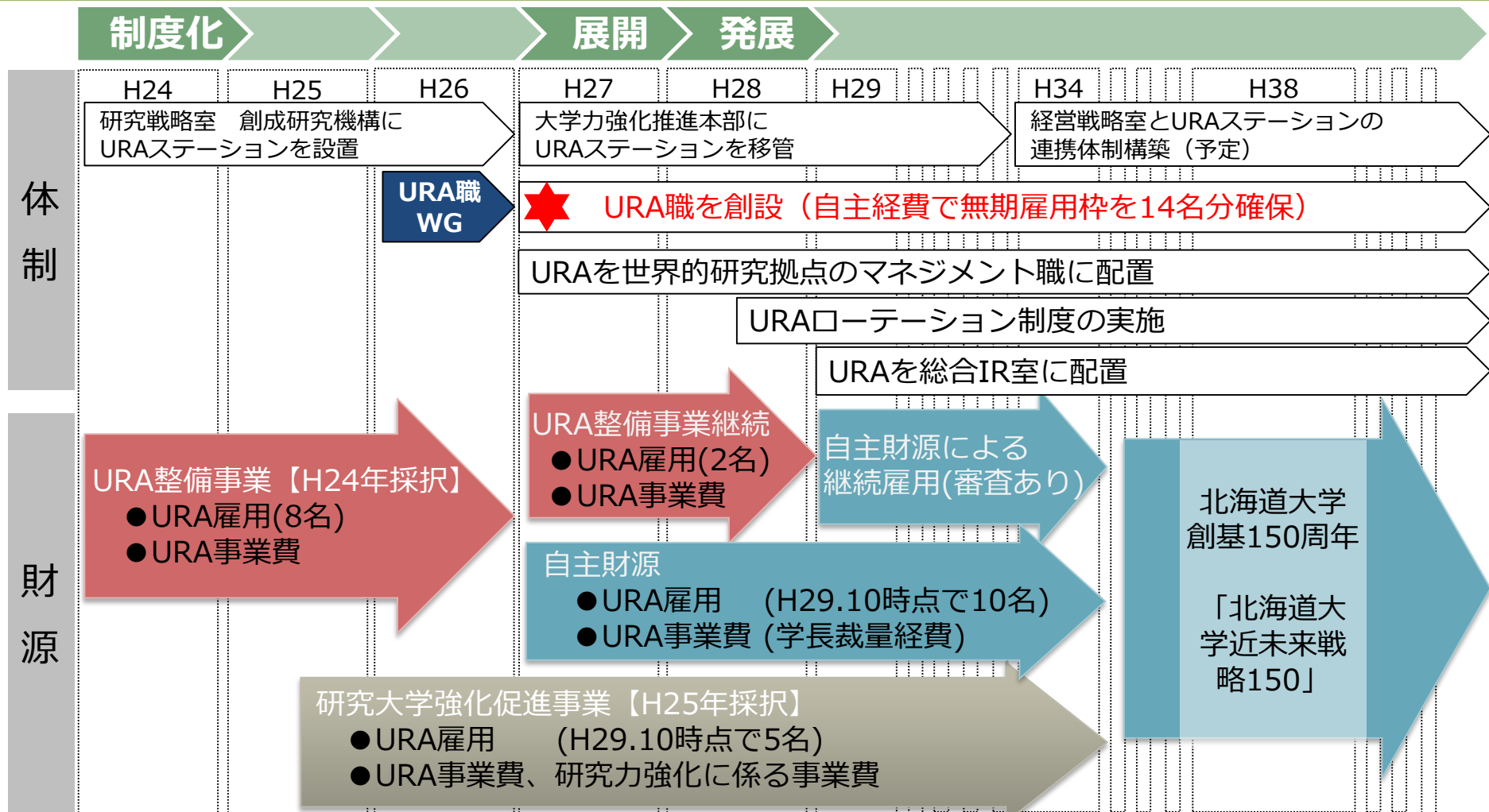


文部科学省科学技術・学術審議会 先端研究基盤部会 専門委員
科学技術・学術政策研究所 客員研究官 文部科学省科学技術・学術審議会 人材委員会



北海道大学

3. URAシステムの定着・運営の安定に向けた取組 システム整備の流れと将来構想



- **体制整備**：本事業にてURAの組織・職務体制を整備
- **事業展開**：研究大学促進事業にてURAが企画・立案した事業を展開
- **定着・安定化**：執行部直轄組織として配置、自主経費にて雇用を確保